

夏秋きゅうり

月	旬	作型	主要作業	栽培の要点	摘要		
6	上	#	圃場の選定 排水対策 防風対策 圃場準備 基肥施用 マルチ張り	圃場の準備 風が当たらないところ かん水ができるところ 土壌が深く、保水力がある圃場 道がかりが良いところ 水田で畦間かん水ができるところ 土壌分析の実施 圃場の準備 防風ネット等を設置し、風対策を行う。 1ヶ月前までには、完熟たい肥・ミネリンパワー ・石灰窒素を施用してできるだけ深耕する。 2週間前までには、基肥を施用し、畦 が十分に湿った頃に、畦立て黒マルチ を行う。 畦立て	品種 恵沢-30 栽植距離 230cm(2条) × 80cm 栽植本数 1,086本/10a 播種量 1,200粒/10a 育苗鉢 9cm 育苗日数 20~25日 育苗地温 播種苗温度27~28 確保 移植床地温24~25 確保 最低地温 12 確保		
	中					播種	支柱アーチパイプ (長さ5m) 2m毎に立てる 白黒マルチ 180cm
	下					定植	
7	上	#	追肥		定植 本葉2.5~3枚若苗定植を行う 敷きわらにより地温低下・乾燥防止を 図る。 浅植えとする。 風が強い場合、風除けを行う。(べたが け等) アトマイヤー1粒剤1~2g/株、植 穴又は株元土壌混和する。 整枝 下位30cmまでの小づる、幼花・幼果 は摘み取る。 150cm前後で摘心し、170cm以上 の高さにしない。支柱天井部が隠れない ようにする。 小づる・孫づるが垂れないようにネット に誘引する。 追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。		
	中					追肥	
	下					追肥	
8	上	#	追肥	追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。	摘芯 小づるは1節~2節で摘 芯。孫づるは混んだら摘 芯する。 1度に摘芯すると樹勢が 落ちるのでこまめに行う 1回当たり1株1~2葉		
	中					追肥	
	下					追肥	
9	上	#	追肥	追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。	摘芯 小づるは1節~2節で摘 芯。孫づるは混んだら摘 芯する。 1度に摘芯すると樹勢が 落ちるのでこまめに行う 1回当たり1株1~2葉		
	中					追肥	
	下					追肥	
#	上	#	追肥	追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。	摘芯 小づるは1節~2節で摘 芯。孫づるは混んだら摘 芯する。 1度に摘芯すると樹勢が 落ちるのでこまめに行う 1回当たり1株1~2葉		
	中					追肥	
	下					追肥	
#	上	#	追肥	追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。	摘芯 小づるは1節~2節で摘 芯。孫づるは混んだら摘 芯する。 1度に摘芯すると樹勢が 落ちるのでこまめに行う 1回当たり1株1~2葉		
	中					追肥	
	下					追肥	
#	上	#	追肥	追肥 収穫3~4日前から追肥を行う。最盛期 (花数・着果負担で判断)には7~10 日毎に窒素成分で2~3kg施用 摘葉 病葉・古葉・小づる、孫づるに被さる 葉を摘葉する。	摘芯 小づるは1節~2節で摘 芯。孫づるは混んだら摘 芯する。 1度に摘芯すると樹勢が 落ちるのでこまめに行う 1回当たり1株1~2葉		
	中					追肥	
	下					追肥	
				肥料名	基肥	追肥	
				完熟たい肥	3000kg		
				石灰窒素	20kg		
				ミネリンパワー	100kg		
				粒状固形30	140kg		
				NK化成		20kg × 5回	
				ワレコ		100kg	